

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自分らしい暮らしとう理念を共有して自分の自宅と同じ暮らしが出来る様に支援し実践につなげている	「笑顔で生き生きと自分らしい暮らし」という理念については来訪者の目にもふれるようホールの壁に大きく掲示されている。職員は理念の持つ意味を良く理解して小さなことでも耳を傾け、利用者の思っていることを受け止め、意向に沿えるよう日々の支援に取り組んでいる。また、年度初めの職員会議の席上で理念について振り返りの機会を設け、それに沿った支援について話し合い、さらに理解を深めるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的にしている	コロナが5類になっていても地域の交流出来ていません。	法人として開設以来区費を納め、行事案内等もいただき、区のコミュニティーには利用者の製作物を出品して来たがコロナ禍が続き中断されたままとなっている。そうした中、地区の敬老会が行われ、地区に住所がある利用者に対しお誘いがあり記念品が届けられたという。現在、各種ボランティアの来訪も中断されたままになっているが、コロナの5類への移行を受け市の社会福祉協議会のボランティア係に確認して地域ボランティアの来訪を再開したいという意向を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域交流ないので行なえていないです。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナから書面にしてもらい、行事、サービス内容を報告し助言などの返事をもらっています。	例年であれば3ヶ月に1回対面での運営推進会議を開催しているが、新型コロナ禍が長引き書面での開催が続いている。利用状況、職員状況、事故ヒヤリハット報告、地域との連携・協力等、活動報告等を書面にして区長、民生委員、市介護福祉課職員、提携診療所の看護主任、市介護相談員に届け、意見を頂きサービスの向上に繋げている。また、コロナ5類への移行を受け、対面での会議開催を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の書面ですが、意見、助言をいただいたり必要時には連絡確認をしている。	必要に応じ地域包括支援センターと連携を取り、様々な事柄について相談している。市介護福祉課には事故・ヒヤリハット報告をしている。介護認定更新調査は調査員がホームに来訪し、介護支援専門員が対応している。市の介護相談員の来訪もコロナ5類への移行を受け再開が予定されているので受け入れ、コロナ以前のような交流したいとしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	鍵は中から開けるようになっていて。	法人の方針として拘束のないケアに取り組んでいる。施設の周りは坂道が多く、安全確保のため玄関は施錠されている。帰宅願望のある方がいるが、話を聞き、納得していただくようにしている。転倒危惧のある方もおり、センサー類の使用はしていないが、ホールには必ず1名の職員が居るようにし、きめ細かな所在確認を心掛け、安全、安心な支援に繋げている。数ヶ月に1回行われる法人の身体拘束研修会に合わせて身体拘束適正化委員会を6ヶ月に1回開き、拘束に対する意識を高め拘束ゼロに向けた支援に当たっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	静止にならないように職員間でお互いに注意し合っている。職員間で話し合いを行っている状態把握対応を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の尊厳を保ち制度を理解し活用する。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明の時生活状態や発生されると思われる事態、対応を事前に話し合い納得して頂いてから契約を交わしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の要望は個々にあった落ち着いた時間に耳を傾け日常生活中から読み取る。	家族の面会はコロナ蔓延中は窓越しでの面会を行っていたが、5月以降は事前に連絡を頂き、玄関先で距離を取り短時間での面会を行っている。家族とはケアマネジャーが電話できめ細かく利用者の状況を家族に伝え、3ヶ月に1回、行事の様子を写真に収め同封して届け喜ばれている。新型コロナ前、行事の際に家族を招待していたが、現在は難しい状況下でもあるので季節に合わせて外出の際に現地集合で家族と共にお花見等を楽しみたいという意向を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1職員会議で話し合いを持ち希望、提案を出している。	月1回月末の金曜日の15時から1時間30分位、殆どの職員が出席して職員会議を行っている。利用者一人ひとりの状況を担当職員より発表し、意見を出し合い、より良い支援に繋げている。月1回の行事に付いての検討、各種勉強会、意見交換等を行い業務内容の向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2健康診断行っている。資格取得実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年法人内全職員研修行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内で意見交換する機会あり。委員会等であります。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や不安を傾聴し支援しています。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	個々に合ったサービス提供に努め私達が出来ることを話し合う機会を持って支援している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の抱えている不安を傾聴本人本位の支援で関わり方を話し合っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事や今までの習慣を尊重し食事作り等関って頂くように支援しています。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の以前の暮らしや思いをお聞きしています。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	時々電話連絡出来るように支援しています。	友人、知人の面会はコロナ禍のため自粛している。そうした中、家族とお墓参りに出掛けたり法事に行かれている方もいる。理美容については2~3ヶ月に1回、顔馴染みとなった訪問美容師が来訪しカットしていただいている。欲しい物については家族に了解を頂き職員が買い物している。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒にレクリエーション等行い、楽しく会話出来る機会を提供し関係作りに配慮しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転所に行って電話相談には支援する事あります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	状態、表情から思いや意向を読み取り本人らしさが出るように支援している。	意思表示の難しい利用者が若干名いるが、目線を変え話をしたり、表情や行動より希望を受け止めたりしている。大半の方には話を聞き、意向に沿えるよう取り組んでいる。また、入浴時やレクリエーション等、日々の支援の中で気づいた事柄については「みんなで見ようノート」や「個人ノート」にとり纏め、職員同士で情報を共有し、更に、出勤時に確認し、利用者一人ひとりの意向に沿えるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの習慣等本人、家族に聞いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中から本人の思いを共感しさりげない支援を行っている、		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族に何か要望等あるか聞き介護計画書を作成しています。	職員は1~2名の利用者を担当し、居室管理、足りない物の補充、日々の介護全般を通しての問題点を把握して職員会議で発表したりしている。また、職員会議でモニタリングを行い、ケアマネジャーがプラン作成に取り組んでいる。入居時は家族から聞いた情報も参考に暫定で1ヶ月のプランを作成し、本プラン作成に繋げている。3ヶ月に1回状況確認を行い、電話等で聞いた家族の意向も加味しながら長期目標を6ヶ月とし、見直しもしている。そうした中、状態に変化が見られた時には随時の見直しを行い、一人ひとりに合った支援に繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月職員会議で話し合い何か変化あれば介護計画書に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員会議で議題にして話し合いをする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ流行り出した時から地域交流等受け入れ出来ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族希望かかりつけ医(協力医院)を確認している。原則として受診家族に対応で、無理の時職員で対応している。	入居時に医療体制に付いて説明している。現在、全利用者がホーム協力医の月2回の往診で対応している。協力医の医師3名によるきめ細かな診療が行われ、健康維持に繋げている。また、週1回、木曜日には法人内の訪問看護師の来訪があり、健康管理と合わせ医師との連携が図られている。歯科については必要に応じてかかりつけ医への受診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医院の看護師に相談出来る事になっている。普段から健康管理や医療面を相談して対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	担当医が入院先に連絡し介護経過報告書を提出し情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明し、少しでも変化あった時、家族に報告、連絡している。重度化した時特養に転院対応している。	終末期ケアに対する指針があり、入居時に説明を行い意向を聞き、同意を頂いている。状態が変化し終末期に到った時には家族、協力医、ホーム職員で話し合いの場を設け、医師の指示の下、家族の意向も確認の上改めて看取り同意書にサインを頂き、医療行為を必要としない限りにおいて看取り支援に取り組んでいる。1年以内に2名の方の看取りを行い、新型コロナ禍ではあったが家族には居室にて共に最期の時を過ごしていただき感謝の言葉を頂いている。また、様子を見ながらベッドを慣れ親しんだホールに移動したり、本人の要望に合わせて梅干し入りのおかゆ等、食べられるもの食べていただいている。看取り後は振り返りの場を持ち、次回に繋げるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応に備えてAED講習会全職員参加した		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	貯蓄をどうするか検討中です。夜間想定避難訓練出来ていない。	消防署へ届け出の上、年2回防災訓練を行っている。3月には通報訓練、消火器の使い方研修、避難経路の確認を行った。11月には火災を想定した避難訓練、消火器の使い方訓練、通報訓練の実施を予定している。また、緊急連絡網の確認訓練を定期的実施する予定である。備蓄として「水」「ご飯」「レトルト食品」が3日分準備されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員がプライバシーに配慮した言葉かけ等を心掛けている。	接し方には気配りをし上から目線にならないよう、顔を見て、かがんで話をするようにしている。また、職員会議で問題点を出し合い、プライバシーに配慮し気持ち良く過ごしていただくようにしている。呼び掛けについては「あだ名」や「ちゃん」付けで呼ぶことはしないよう徹底し、人生の先輩として尊敬の念を込め、苗字か名前を「さん」付けでお呼びしている。入室の際にはノック2回と「失礼します」の声掛けを忘れないよう徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自発行為を尊重している。日常生活の会話の中から希望を確認している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にあった生活への支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ前ドライブ行く時個々にあった身だしなみで外出していた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来る範囲でお手伝いをしている。	全利用者が自力で食事が出来る状況で食形態は常食である。献立は冷蔵庫の中の食材を見て利用者の希望も聞きながら職員が前日とだぶらないよう調理している。そうした中、夏場には「バーベキュー」や「流しソーメン」を楽しみ、誕生日には好きな物を聞き提供している。また、春のお彼岸には「ぼた餅」、秋には「おはぎ」、土用の丑の日には「鰻」等、季節の味を楽しんでいる。更に月1回のイベントの際には利用者のリクエストに答え「お寿司」などをテイクアウトして楽しんでいる。更に、近所の方から野菜の差し入れを頂き、感謝をしながら調理に活かしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調不良時以外は皆と同じ食事で食事は違う方もいますが、水分等もきちんととれています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全員の方に毎食後歯磨きに声掛けをしている。義歯の洗浄消毒を支援しています。		

グループホーム高尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況を確認出来る表を見て個々にあった支援をしています。	見守りを受け自立している方が三分の二強おり、全介助の方が若干名という状況である。職員は利用者一人ひとりのパターンを把握し、また、排泄表も参考に一人ひとりの行動を見て排泄フォローを行うようにしている。排便については様子を見ながら3日間無い場合はコントロールを行い、無い日が続く場合は訪問看護師に相談して排便等の対応をしている。また、「お茶」「コーヒー」「ジュース」等を中心に1日1,000ccの水分摂取に繋げ、スムーズな排泄に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味方水分量を調整したり、ヨーグルトを摂取し改善しなかったら便秘薬を服用されている方もいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人一人の状況に合わせてゆったりと入浴出来るように支援しています。	広い浴室には3方向から入浴介助が出来る浴槽が2ヶ備え付けられている。入浴拒否の方もなく、週2回、入浴を行っている。自立の方が若干名、一部介助の方が半数弱、全介助の方が三分の一という状況である。入浴剤の使用と合わせ、「ゆず湯」「菖蒲湯」等の季節のお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節毎に状況を考え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常用している薬に関して、職員が確認出来る場所に配置各勤務者が服薬確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様進んで食器拭きを行う場面があり、自主行動を尊重している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以降外出は出来ていません。	外出時、自力歩行の方が半数強、歩行器使用の方とシルバーカー使用の方が若干名、車いす使用の方が数名という状況である。ホームの周りは坂道が多く、散歩をすることが難しいため、玄関前に出て外気浴をしたり、ホーム内の37メートルある廊下を歩き、また、ラジオ体操や足踏み体操を行い体力維持に努めている。新型コロナウイルスの影響を受け外出が難しい状況が続いていたが、5月以降の新型コロナウイルス5類への移行を受け、この秋にはお弁当を持って諏訪湖一周ドライブや諏訪湖近くの足湯を楽しんだという。今後、感染状況見ながら季節に合わせたドライブ外出を行う予定を立てている。	

グループホーム高尾

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関して家族に持ち帰って貰っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	伝えたいこと聞いて、家族に電話でお話し出来るように支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様作品を貼り付けたりして支援しています。	広々とした食堂兼ホールは吹き抜けの天井で陽当たりも良く開放感が漂っている。キッチンから全体が見渡せる造りとなっており安全確保に配慮がされている。37メートルある長い廊下は利用者が日課として歩き体力維持に役立っている。また、ホーム内は利用者と職員で共同制作した季節の飾り付けが施されている。更に、壁には利用者のぬりえ等の作品が貼られ活動の一端を窺うことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室でテレビ見る方や昼寝する方やホールにて話している方や皆安心して共用されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって安心した居心地となるように馴染みの物を持ってきて配慮して生活されている	整理整頓が行き届き、清潔感が漂う居室には洗面台と大き目の押入れが設置されており暮らし易い造りとなっている。持ち込みは自由で、家族と相談の上、イス、テレビ、ハンガーラック等が持ち込まれ、家族の写真や好きなヌイグルミ等に囲まれ、思い思いの生活を送っていることが垣間見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活改善に取り組んでいる。		